

## 特集「インタラクティブシステムとソフトウェア」の編集にあたって

推薦論文編集委員 塚本 昌彦 寺田 努 高橋 伸

日本ソフトウェア科学会インタラクティブシステムとソフトウェア研究会は、「インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ」(Workshop on Interactive Systems and Software; WISS)を毎年開催している。WISSはインタラクティブシステムの新しい実装技術や面白い応用などを議論する場として1993年に始まり、2014年には22回目を迎えた。本特集は、2014年11月に浜名湖ロイヤルホテルで開催されたWISS2014の推薦論文をまとめた特集である。WISS推薦論文は、WISSで発表された論文の中からWISSプログラム委員会で推薦された論文に対して、本学会の論文査読規定に基づいた厳正な査読を行い、採録判定された論文を掲載する企画である。WISS2014からは6本の論文が推薦されたが、本特集では現時点までに採録決定された5本の論文を掲載している。

奥川らの「聴覚フィードバックを利用したペダリングトレーニングシステム」は、自転車のクランクにセンサを取り付けて回転情報を取得し、聴覚的にフィードバックしてくれるペダリングトレーニングシステムの提案と評価について報告したものである。萩原らの「シースルー型HMDを用いた社会福祉学的アプローチに基づく“視線恐怖症のコミュ障”支援システムの開発と検証」は、対人コミュニケーションに不安を持つ者を社会福祉学的な観点から支援するためのヘッドマウントディスプレイを用いたシステムの提案である。小山らの「ヒューマンコンピュータによるパラメタ空間解析を用いた視覚デザイン探索」では、クラウドソーシングを用いたヒューマンコンピュータによって、様々なパラメタによるデザインの比較結果を集め、それをもとにパラメタ空間の解析を行い、視覚デザイン探索を支援している。大西らの「大画面を備える携帯情報端末を安定して操作するための片手親指操作手法」は、片手で持つ際に指が届かない領域ができてしまうような大画面携帯端末においても、片手で使うことができる操作手法を提案した論文である。サイバーページに掲載した鈴木らの「AnnoTone: 高周波音の映像収録時埋め込みによる編集支援」は、GPS位置情報やカット情報などの撮影関連注釈情報を、高域の音声信号に変換してビデオ撮影時に記録し、編集時に活用するという手法についての論文である。

本特集がインタラクティブシステム分野の研究者と本分野に興味を持つ方々の一助となり、本分野の今後の発展に寄与できれば幸いである。最後に、推薦論文の査読をお引き受けいただいた方々に心より御礼申し上げる次第である。

---

Introduction to the Special Issue on Interactive Systems and Software.

Masahiko Tsukamoto, 神戸大学, Kobe University.

Tsutomu Terada, 神戸大学, Kobe University.

Shin Takahashi, 筑波大学, University of Tsukuba.